

令和6年度 竹田教育事務所

実践事例の紹介

令和6年度竹田教育事務所管内の学校訪問等で見られた実践事例を紹介します。ぜひ、各学校や教育委員会等でご活用いただければと思います。

学校マネジメントの深化

竹田市立豊岡小学校

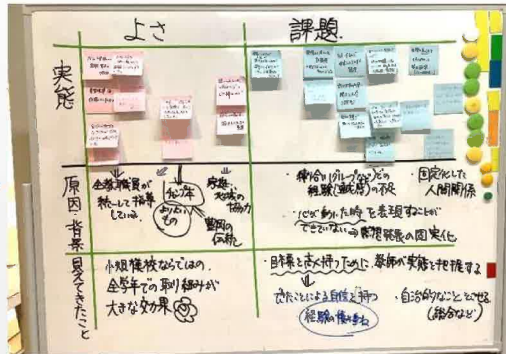
年度を跨いだ検証・改善の工夫

Point 1 全員の意見を集約しながら次年度の方向性を定めた

Point 2 リーダーを若手に担わせることで人材育成につなげている

●年度末の校内研究

学習・生活の両面からKJ法により子どもの実態を出し合った。



- ・ホワイトボードをお互いのグループで交流
- ・共通点を見つけ、来年度に取り組むべきことを協議しながら考えた。

2つのグループ編成は、教務主任と研究主任がそれぞれのリーダーとなり、各学年部内で2グループに分けた。今までは低学年と高学年で分けていたが、全ての学年がそれぞれのグループに入るため全体が見えやすく、効率よく共有もできるようになった。

豊岡小の子ども課題

実態	よさ			気になるところ		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本が定着している子どもが多い ○自分の考えをもつことができる ○「付けし」がで ○タブレットを活用 ○あいでできる 	<ul style="list-style-type: none"> ○「まず」「次に」などを使って 	<ul style="list-style-type: none"> ○何事もまじめに取り組む(素直) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲発表の音が小さい ▲根拠と理由を 	<ul style="list-style-type: none"> ▲応用力がない ▲教え合い学 	<ul style="list-style-type: none"> ▲集中力のない子どもがいる ▲丁寧に取り組むことが苦手な子どもがいる 	
原因背景	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の統一した指導により育ってきている ・チャンプ本は豊小の伝統であり充実している ・地域、保護者の協力 			<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しでの達成感など経験不足 ・前向きにまじめ型にはまる ・考え方がちがったりすると不安になったり、失敗を恐れたり ・人間関係の固定化 		
見えてきたこと	<ul style="list-style-type: none"> *小規模ならではの全学年の取組、異学年交流活動が効果あり 			<ul style="list-style-type: none"> *授業で課題から個々の考えを出した後、子ども同士で答えをつくり上げさせる(任せる) *目標を高く持つためにこれまでの経験範囲を超えて様々なことをさせる(自治的なことをさせる:総会、委員会、学年集会など)過程を大事に(失敗から学ぶ)→できたことで自信をもつ *家庭への啓発、連携強化の必要性 		

「よさ」と「気になるところ」を3つの資質・能力で焦点化してまとめている。これにより次年度の「4点セット整理票」が作成しやすくなった。

・「原因背景」「見えてきたこと」から、実態やねらいを反映した次年度の学校の課題を設定し取組につなげる。

●4点セットの見直し

2つのグループで4点セットを見直した。

- ・4点セットをどう変えていけば課題解決につながるか、意見をもとに素案を作った。

同じグループだが、今度はあえて若手がリーダーとなり、協議を進めながら全学年で交流を深めた。

・若手リーダーが全体に説明。

・全員で課題について協議し考えたことで、意識付けができた。
・若手に活躍させたことで、効果的な人材育成につながった。



短期PDCA「^{げっし}月次決算」

- Point 1 毎月3つのプロジェクトチームにより、児童のきめ細やかな把握を行っている
- Point 2 主任クラスの人材育成につなげている

教務主任が毎月3つのプロジェクトチームを開催し、短期PDCA「月次決算」による検証・改善を行う。



確かな学力PT

取組内容及び国語・算数の指標、単元末テストについて検討等



豊かな心・郷土愛PT

「兆しの把握」及び「未然防止・早期対応」、目標へ効率的に近づくための取組を構築等



健やかな体PT

各指標の機動的検証・改善、菅尾版体力・運動能力調査の比較・検証等

若手とベテランの融合により、知恵を出し、風を通し、活力ある職場づくりを行っている。

管理職は、各リーダーの「マネジメント指標」を明確化

学校運営方針と「月次決算」結果について、**保護者**や**地域とも随時共有**

若手教員の組織的な育成

- Point ベテランが、ノウハウ継承に意欲を燃やせる校内研究を行っている



全教職員を児童に見立てた「模擬授業」



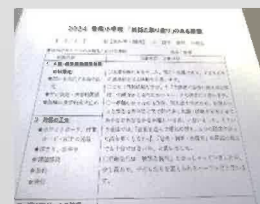
教務主任・研究主任の「その場を捉えた指導・助言」



教員自身が何を学んだかを語る「まとめ」



ベテランによる全教職員を児童に見立てた「模擬授業」及び「示範授業」



管理職のOJT (授業観察シート)

教務・研究主任の企画指導

若手が主体的に学べる校内研究

「チーム菅尾」での協働

- Point 1** 年間を通して協議できる伝統の「チーム菅尾 人材リスト」を活用している
- Point 2** 地域人材、研究機関、民間等の教育資源も取り入れている

● 「チーム菅尾 人材リスト」

随時、CSと区長会で追加や見直しを行い、各担当教員が活動に取り込みながら、適切な役割分担を推進している。



・チーム書写



・チーム読み聞かせ



・チーム放課後TRY



・チーム花苗



・チーム防災



・チーム道の駅



・チームアグリ



・チーム餅つき



・チーム環境整備



・チームスイミング



・大分県農林水産部との家庭科学習

地域と一体となった教育を推進しており、各学期にのべ150名を超える地域人材活用を行っている。

● ダイナミックな郷土学

様々な人材や各種専門機関との協働を行っている。「教科横断的な学び」で思考力と発信力が身に付いている。さらに、発表が低学年の学びへの憧れにつながっている。



・IT企業とデジタル防災マップづくり



・大分大学減災・復興デザイン教育研究センターとの協働



・日本文理大学と連携したジオ学習



・プレゼンテーションで発表

大分県プレゼンテーションコンテスト
3年連続「優勝」

地域と双方向の「顔の見える」連携により、魅力を創造し発信する学校づくりを進め、学校が地域の核となり地域の活性化を目指す。

地域が主体となるクラブ活動

- **Point 1** 地域の方によるクラブ活動を教育課程に位置づけ、「社会に開かれた教育課程」の実現へ
- **Point 2** 人材発掘・依頼・実施を地域の方が担うことで教職員の働き方改革につながる

<地域の方が主体となるクラブ活動の利点>

- クラブ活動の種類が増える
- 児童が新たなことに取り組むことで、得意なことを発見したりできたという達成感を味わったりし、自己肯定感が高まる
- 興味・関心を高め、キャリア教育につながる
- 児童が地域の方と接する機会が増える
- 学校と地域の関係が深まる
- 教師の負担が減り、働き方改革につながる

令和4年度

【三重第一小学校】

<クラブ活動の課題>

- ・教員のみでの指導では種類が限られる
- ・もっと児童にいろいろな活動に取り組みたい
- ・専門ではない活動は準備等の負担となる

↓
地域の方からのサポートを得られないか

学校運営協議会と連携

- 学校運営協議会会長が講師の人材探し・依頼
- 講師はすべて地域の方
- コミュニティ・スクールの取組の一環として実施

令和5年度

【三重第一小学校】

<クラブ活動(4・5・6年生)>

- | | | | |
|---------|--------|-------|---------|
| ①絵手紙 | ②手編み | ③けん玉 | ④テニピン |
| ⑤ダンス | ⑥茶道 | ⑦詩吟 | ⑧まちなか探検 |
| ⑨口演 | ⑩SPACE | ⑪合唱 | ⑫絵本 |
| ⑬世界を知ろう | ⑭つくり隊 | ⑮みつけ隊 | |



つくり隊クラブ



口演クラブ

【講師の感想】

それぞれやりたいことをまとめるのが大変でしたが、子どもたちなりに話し合い、想いを大切にしている姿が見れました。自由に作る子どもたちのパワーを感じ、集中する姿に元気をもらいました。大人も子どもも楽しめたと思います。

【児童の感想】

これまで練習してきた小話を本格的な場所を作ってやりました。最初は笑わせられるか心配だったけど、最初の時よりもうまくよかったです。これまでで一番楽しいクラブ活動になりました。

4校に拡大

令和6年度

【三重第一小学校】

【三重東小学校】

【百枝小学校】

【新田小学校】

- 三重町内合同コミュニティ・スクール「三重町の子どもを育てる会」の取組として、1校→4校に拡大して実施

<クラブ活動(4・5・6年生)>

- | | |
|-------|----------|
| ①絵手紙 | ②毛糸遊び |
| ③けん玉 | ④テニピン |
| ⑤ダンス | ⑥茶道 |
| ⑦詩吟 | ⑧まちなか探検 |
| ⑨口演 | ⑩SPACE |
| ⑪合唱 | ⑫世界を知ろう |
| ⑬つくり隊 | ⑭グランドゴルフ |
| ⑮新舞踊 | |

※学校の児童数に応じて、開設クラブ数を調整して実施

※講師の活動日が重ならないように時期を調整

C・ルームの設置

- **Point 1** 地域の方にとって、校内に自由に使える場所があることで学校に訪問しやすくなる
- **Point 2** 児童にとって、学校運営協議会の方とふれあう機会が増え、身近な存在となる
- **Point 3** 「地域とともにある学校づくり」の推進につながる



三重第一小学校の校内に地域や保護者の方々が自由に使える「C・ルーム」を設置



R6「三重町の子どもを育てる会」三重町CSのテーマ
「夢叶える MIE・CS
~いっしょにつなげる地域の未来~」

M = 三重町の子どもを、未来を見据えた活動を、
みんながつながって、みんなのため

I = いっしょにつくろう、愛 (i) をこめて、私 (I) が
やる、私もできることがある

E = 笑顔で、笑顔につながる活動を、エンジョイする
気持ちで、エネルギーを分かち合う

汎用性

「地域と子どもたちと先生と保護者のみんなが気軽に集える」というフレーズで、誰でも何にでも使える場所として活用。

設置

学校運営協議会会長を中心に、机・イスの調達から、壁面デザインを地域の方が担当。

安全面

【地域の方がC・ルームに入る際は、玄関入り口の事務室か職員室に一声かけてから入室することになっている。



【活用例①】入学後の見守り活動

4月に新1年生の下校を、地域の方が付き添い見守り活動を行った。その際の打ち合わせや集合場所として、C・ルームを活用。

【活用例②】地域の方による授業支援

地域の方が授業支援やゲストティーチャーとしての参加をする際、事前打ち合わせや当日打ち合わせ等で、C・ルームを活用。

目的をもって考えを伝え合う場の工夫

Point 1 ペア・グループ活動の目的を児童に意識させた話し合い

Point 2 児童にもわかりやすく視覚化

4点セットの重点的取組
「児童・生徒の表現力・説明力の育成」

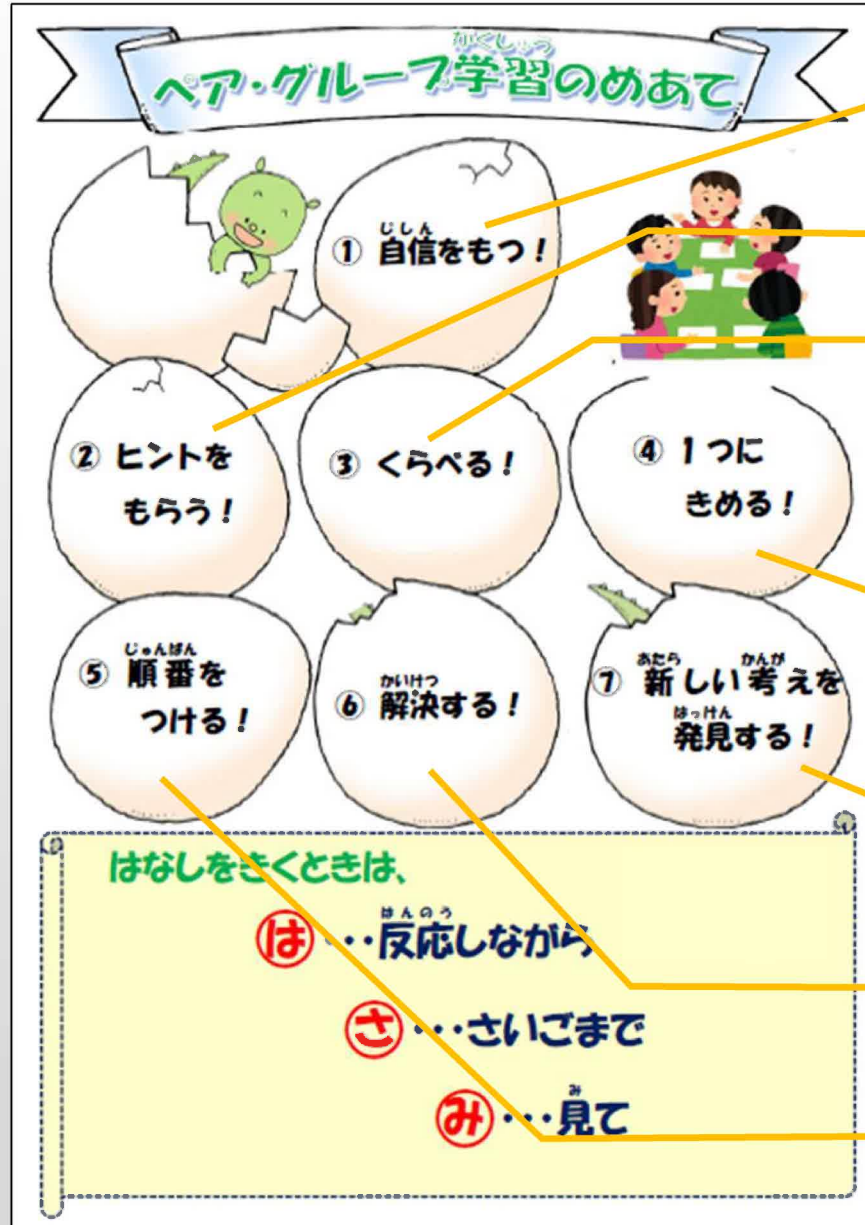


4点セットの取組指標
「授業者は単元のつけたい力に応じて、**目的を持った考えを伝える場を設定する**」



「たまご」を用いて、「何のために話し合うのか」を意識させることで、自分の考えを伝えるだけの話し合いから、より活発な話し合いへ

授業では、その授業で必要な話し合いの「たまご」を提示



友達と確認することで、自信をもって発表する意欲につなげる。

友達同士で教え合うことで、考えを深め、解決への糸口をつかむ。

共通点や相違点を見出す。また、友達の考えの良さや自分の考えの足りないところに気づく。

理由を説明しながら、考えを1つにまとめる。

友達の考えを聞くことで、自分が気づかなかった視点に気づく。また、新たな考えを見出す。

友達と力を合わせ、課題解決を行う。

一番大切なものを理由付けしながら考えたり、焦点化したりする。

三重東小「シェアタイム」

Point 1 伝え合い活動を主体的に行うための工夫

Point 2 自己肯定感や自己存在感の構築につながる

＜シェアタイムとは＞ 授業中、自席に留まらず自由に立ち歩き、相談したり話し合ったりしてもよい時間。

【意義1】

限定的な人間関係の解消

【意義2】

誰とでも関わり合える児童の育成

【意義3】

「わからない」をそのままにしない

- ① 自分の考えをもつ
- ② いろんな考えに出会う
- ③ 自分の立場を明確にする
- ④ 振り返る

児童に期待する姿

「話したい」「聞いてみたい」
 「あー」「なるほど」「すげえ」
 「言いたい」
 「考えが変わった」

【深い学びを実現するためのポイント】

- ◆ 目線や笑顔、うなずき、反応等、相手に対する敬意(思いやり)を大切にする → **共感的人間関係を醸成**
- ◆ 児童の声や気持ちを大切にする → **子どもを活動の主体に**
- ◆ 意見の対立を大切にする → **本気で言い合える関係を構築**



～ 実践例 ～ 友達の考えを聞き、自分の考えと比べたり友達の意見を取り入れたりすることで、自分の考えを見直す



(今回のルール)

- ・ワークシートをもっていかない。
- ・3分で3人以上。
- ・必ず理由を聞く。

シェアタイム後

ほとんどの児童が、自分の考えに追加または一部修正を行い、見直した考えをワークシートに記入することができた。

授業改善（個別最適な学び）

S-P表分析

Point 校内で「S-P表分析」を取り入れ、学校全体で統一した取組を行っている

基礎基本の定着が課題であったため、
単元テスト実施後に「S-P表分析」を毎
回実施することで、定着できていない
学習内容や児童を明らかにしていく。



家庭学習や授業時間における
効果的な補充学習につなげる。

個人の学びの様子はどうか？

授業をどのように改善していくか？

①全国的な傾向との比較例：
P曲線（赤実線）が全国平均（赤点線）より上にある設問に着目
→当該学校・学級の正答人数の割合が、全国正答率よりも低かった設問
（誤答内容からどこでつまづいているかに注目し分析することが重要）

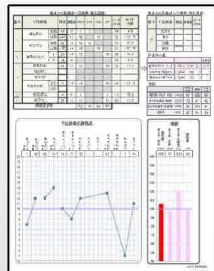
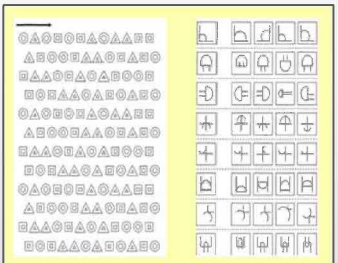
②「重点的に指導すべきと考えられる設問」の把握例：
S曲線（青線）より右側の誤答（橙色セル）に着目
→当該児童生徒にとって難解だったと考えられる設問であり、
一人一人の児童生徒に対し、見直し・復習などの指導を行う
ことが有効と考えられる設問

③「重点的に指導すべきと考えられる設問」の把握例：
S曲線（青線）より左側の誤答（黄色セル）に着目
→当該児童生徒にとって比較的正確が容易だったと考えられ、
不注意による誤答や比較的克服が容易なものと想定される設問

文部科学省：学校/学級別解答状況整理表（S-P表）の活用方法について

「感覚統合論」からのアプローチ

Point 専門家による検査から個人カルテの作成を行っている



「認知能力」を構成する「感覚統合」
の精度を整えるため、その下支えとな
る体づくりも行っています。



コグトレーニング



田んぼで泥遊び



専門家監修
「遊びの森」

全校児童に、専門家による「スクリーニング
検査(WAVE検査)」を実施し、「児童本人は
何に困っているのか？」を把握する。

月1回のセクション会議で取組状
況の確認や検証・改善を行いなが
ら、形式知・暗黙知をもとに複数
で学年の指導を行う。



「個別の指導計画」の
参考としてもつながる
『個人カルテ』の作成

遠隔システムを活用した複数校合同授業

- Point 1 小規模校における協働的な学習がひろがる
- Point 2 合同授業を行うことで、経験年数の浅い教員の
人材育成につながる

目的

中山間地域等の小規模校において、遠隔システムを活用することにより、日常の教育活動を支援したり、子どもたちの協働的な学びを促進したりして、教育の質の向上を図る。

【実施上の工夫】

- ・児童が学習環境に少しずつ慣れることができるように、授業のはじめに自己紹介やアイスブレイクを行った。
- ・学習支援アプリの設定変更により、資料の共有や視覚的な考えの交流等、学校間での共有を可能にした。

小学校第1学年：生活
『秋のビンゴゲーム』
単元名「きせつとなかよし あき」

祖峰小 6名 城原小 4名 久住小 8名 白丹小 4名 豊岡小 6名



各学校で事前に「秋見つけ」を行い、ビンゴカードのマスをうめておく。



学校ごとに順番に発表する。

それぞれの学校で見つけた「秋」を交流する。

小学校第5学年：外国語
『他校の友だちへの自己紹介』
単元名「自己紹介をしよう」

久住小 6名 祖峰小 8名 城原小 4名



各学校で事前に教科書で自己紹介のための表現を学んでおく。



絵や文字等をタブレット等で見せながら、英語で他校の友だちに自己紹介を行う。

振り返りで次の学習につなげる。

小学校第2学年：国語
『クイズで文章読解』
単元名「声に出してみよう」

菅生小 1名 城原小 2名 白丹小 2名 久住小 1名



交代しながら、教科書の物語を音読する。



物語についての問い（クイズ）に、1人ずつ発表で回答する。



理由を共有しながら、全員で内容を確認する。

授業者が手応えを感じており、実施する学校や参加人数を変えながら今後も実施していく予定。

期待される効果として…学力向上と人材育成、加えて、ICTを効果的に活用した交流授業

子どもと共に創る授業『自学・自習』

Point 1 子どもたちが主体的にどのような授業を行うか考えている

Point 2 教師が出過ぎずに子どもを信じるという意識に変わった

R4に、「個別最適な学び」と「協調的な学び」が本校の子ども達の課題解決に有効ではないか、と考えた。



R5から、「子ども達の課題とめざす姿」を整理し、そこから「わたしたち(教師)がどのように変わればめざす姿に近づけるか」「子どもに何をさせたいのか」「どのような研究をしていきたいのか」を議論。

【課題】 他者意識の低さ、自尊感情の低さ、指示待ち、コミュニケーション力の低さ、失敗や間違いを恐れる

【めざす姿】 意欲的、自主的、自分を表現できる、互いの意見を深め合える

【どのようにしていきたいか】

- ・子どもが授業を創る
- ・子ども同士が対話する授業
- ・子どもに任せると手を出しすぎるのをやめる
- ・やってみようことに挑戦できる場の設定



子どもが創る授業『自学・自習』

<取組の様子(一部)>

学年	教科	内容
1年	国語	新出漢字の学習 *一字に一人ずつ司会を交代
1年	算数	3つの数の計算(○+△-□の式の作り方、計算の仕方)
2年	国語	新出漢字の学習(読み、書き順、使い方、漢字クイズなど)
3年	算数	小数(前時・本時の内容、まとめ) *活動ごとに司会を交代
4年	算数	四角形の作図 *授業の流れを子どもが作って実施
5年	算数	分数の通分 *授業の流れを子どもが作って実施
6年	算数	組み合わせ方 *授業の流れを子どもが作って実施
5,6年	音楽	音楽祭に向けての合奏 *課題の整理と練習計画
8年	英語	不定詞 *授業の流れや提示する例文を子どもが作って実施
7年	数学	数学的な見方、考え方 *授業の流れを子どもが作って実施
7年	音楽	「魔王」の鑑賞
8年	理科	電気の流れ方 *授業の流れと掲示物を子ども自身が作って実施
8年	国語	『枕草子』
8,9年	書写	毛筆「紅花」 *9年生が前年度に学習した課題を8年生に教える



R4に、「個別最適な学び」と「協調的な学び」が本校の子ども達の課題解決に有効ではないか、と考えた。

悩む子どもたちを見て教師は声をかけたが、それを我慢し黙って待つ

<成果>

- ・教師主導より、子どもが意欲的に楽しみながら学習する。
- ・アウトプットすることで理解が深まる。
- ・クラスで司会を助ける場面がある。

<課題>

- ・単元の中で、子どもに任せられる学習と教師の出番との見極め。
- ・子どもと教師の打ち合わせ時間の確保。

授業改善（個別最適な学び）

算数カルテ

Point 1 子どもたち自身が自分で苦手な分野を振り返ることができる

Point 2 教師が個の困りやつまづきに応じた指導につなげている

目的

自分に足りないことを分析したりやることを絞ったり、頑張るところを自分で決めたりすることで、子どもたちに『自己調整力』を身に付けさせる。

授業改善のテーマ・重点に関わる

「**個の力を高める基礎・基本の定着を図る指導の工夫、話す力、聞く力を高める授業実践及び日常的指導の工夫**」を取組内容に

～取り組みの具体(年度当初)～

- ・前学年までの基礎的な計算プリント(学年1枚・10問)を行い、前学年までの定着を見る。
2年生(1枚)3年生(2枚)4年生(3枚)5年生(4枚)6年生(5枚)
- ・26日までの早い段階で取り組みをする。採点はしない。
- ・採点、まとめは「まなびPT」で行い、結果を担任に返し指導につなげる。

効果的にタブレット端末を活用

個別の基礎的・基本的な算数の力の定着をみとめるために、個別の「算数カルテ」を作成

↓
タブレット学習「e-ライブラリ」と「ミライシード」で復習する

『計算カンベキ』にむこう！ 名前[] 2学期版

それぞれ別の年度で習った計算問題を、自分の間違えた問題を整理して、印をつけて苦手な問題をなくしていく！
タブレットの「e-ライブラリ」や「ミライシード」を利用して自分でやるべき問題を決めていく！
「チェック」のところに、やった日にちや◎○△などを記入しよう！

1年生	チェック	2年生	チェック
① たし算		① 小数のたし算	
② たし算(くりおき)		② 小数のひき算	
③ たし算(くりおき)		③ 小数のたし算	
④ たし算(0のたし算)		④ 小数のひき算	
⑤ ひき算		⑤ 大きい数のわり算	
⑥ ひき算(0からひく)		⑥ 10の位のわり算	
⑦ ひき算(くりおき)		⑦ 10の位のわり算	
⑧ 3けたのわり算		⑧ 割り算の性質	
⑨ 3けたのわり算		⑨ 割り算の性質	
⑩ 10の位のわり算		⑩ 割り算の性質	
2年生		3年生	
① 2ケタ÷1ケタ		① 商を分数で	
② 2ケタ÷1ケタ		② 分数のたし算	
③ 3ケタ÷2ケタ(10の倍)		③ 分数のひき算	
④ たし算 筆算		④ 小数のかけ算	
⑤ ひき算 筆算		⑤ 小数のかけ算	
⑥ かけ算		⑥ 小数のわり算	
⑦ かけ算		⑦ 小数のわり算	
⑧ たし算 筆算		⑧ 小数のわり算	
⑨ かけ算 筆算		⑨ 分数のかけ算	
⑩ 3ケタのわり算		⑩ 分数のわり算	
3年生		4年生	
① 大きな数		① 分数のひき算	
② 大きな数		② 分数のかけ算	
③ 100倍		③ 分数のわり算	
④ 100の倍		④ 分数のわり算	
⑤ かけ算		⑤ 分数のわり算	
⑥ かけ算		⑥ 分数のわり算	
⑦ かけ算		⑦ 分数のわり算	
⑧ かけ算		⑧ 分数のわり算	
⑨ かけ算		⑨ 分数のわり算	
⑩ かけ算		⑩ 分数のわり算	

取り組んだ日や取り組んだ問題を記入しよう！

前学年までの学習で弱ところ自分で色を付ける

6年生の算数をかんベキにしよう！ 2学期版

学習内容	自己分析	コメント	取り組んだ日	自己分析
① 割合や図形	☆☆☆	まだ割合や図形を求めるときは、間違えやすい。	11/23	☆☆☆
② 文字と式	☆☆☆	定数の意味がわからない。	11/23	☆☆☆
③ 分数×整数	☆☆☆	OK	11/23	☆☆☆
④ 分数÷整数	☆☆☆	OK	11/23	☆☆☆
⑤ 分数×分数	☆☆☆	OK	11/23	☆☆☆
⑥ 分数÷分数	☆☆☆	OK	11/23	☆☆☆
⑦ 割合	☆☆☆	割合の意味がわからない。	11/23	☆☆☆
⑧ 図形	☆☆☆	面積の求め方がわからない。	11/23	☆☆☆
⑨ データの調べ方	☆☆☆	度数分布表を記入する。	12/2	☆☆☆
⑩ 図形の面積	☆☆☆	図形の面積を求め方。	12/2	☆☆☆
⑪ 割合	☆☆☆	割合の意味がわからない。	12/30	☆☆☆
⑫ 文字と式	☆☆☆	(a+b)×(a-b)の意味がわからない。	1/3	☆☆☆
⑬ データを使って生活を見よう	☆☆☆	中央値の求め方(練習)。	1/5	☆☆☆

現学年の学習について、わかり具合を自己分析し、復習に取り組んでいる

夏休みのタブレット学習で、復習の学習を多くしよう！

【6年】

1. 前の学年までの苦手な計算問題 (4月の毎週テストでまちがえた問題をチェックしています) とり組んだところは「夏休みにがんばったところ」に○をつけたり、コメントを記入したりして！

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
たし算	ひき算	かけ算	わり算	割合
ひき算	かけ算	わり算	割合	図形
かけ算	わり算	割合	図形	割合
わり算	割合	図形	割合	図形
割合	図形	割合	図形	割合
図形	割合	図形	割合	図形
割合	図形	割合	図形	割合
図形	割合	図形	割合	図形
割合	図形	割合	図形	割合
図形	割合	図形	割合	図形

2. 6年生の1学期の学習の内容

学習内容	自分でチェック	先生からの指導	復習の回数
① 割合や図形	○	○	○
② 文字と式	○	○	○
③ 分数×整数	○	○	○
④ 分数÷整数	○	○	○
⑤ 分数×分数	○	○	○
⑥ 分数÷分数	○	○	○
⑦ 割合	○	○	○
⑧ 図形	○	○	○

担任が、復習が必要なところをチェックし面談をして、夏休みに頑張るところを確認する

↪ 週末の自主学習や、冬休みの学習につなげる ↩

↪ 夏休みにタブレットを利用して復習する ↩